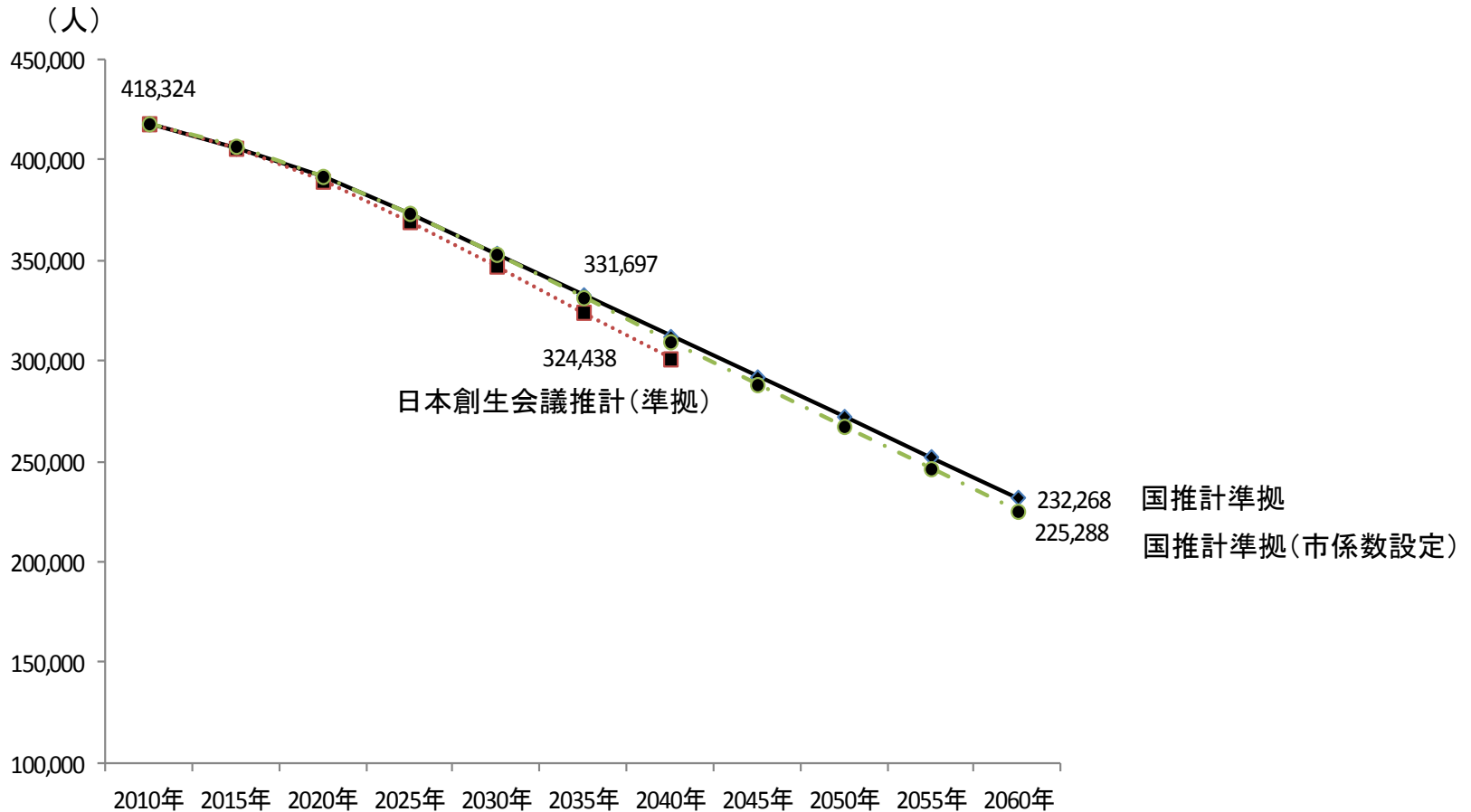


横須賀市の将来人口推計 (国の推計準拠)

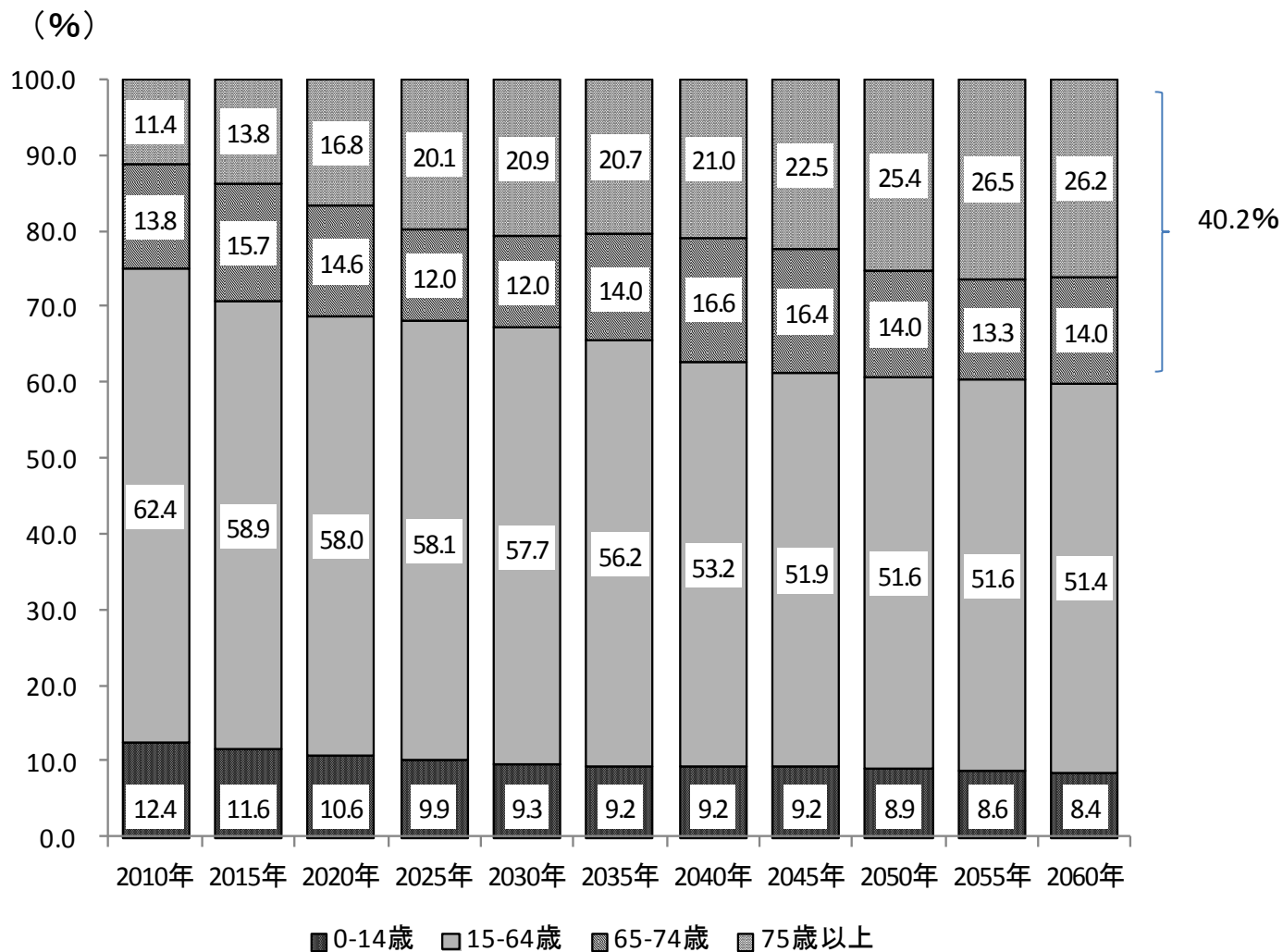
「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局」提供資料(平成26年10月20日)をもとに作成

1 将来人口の推移



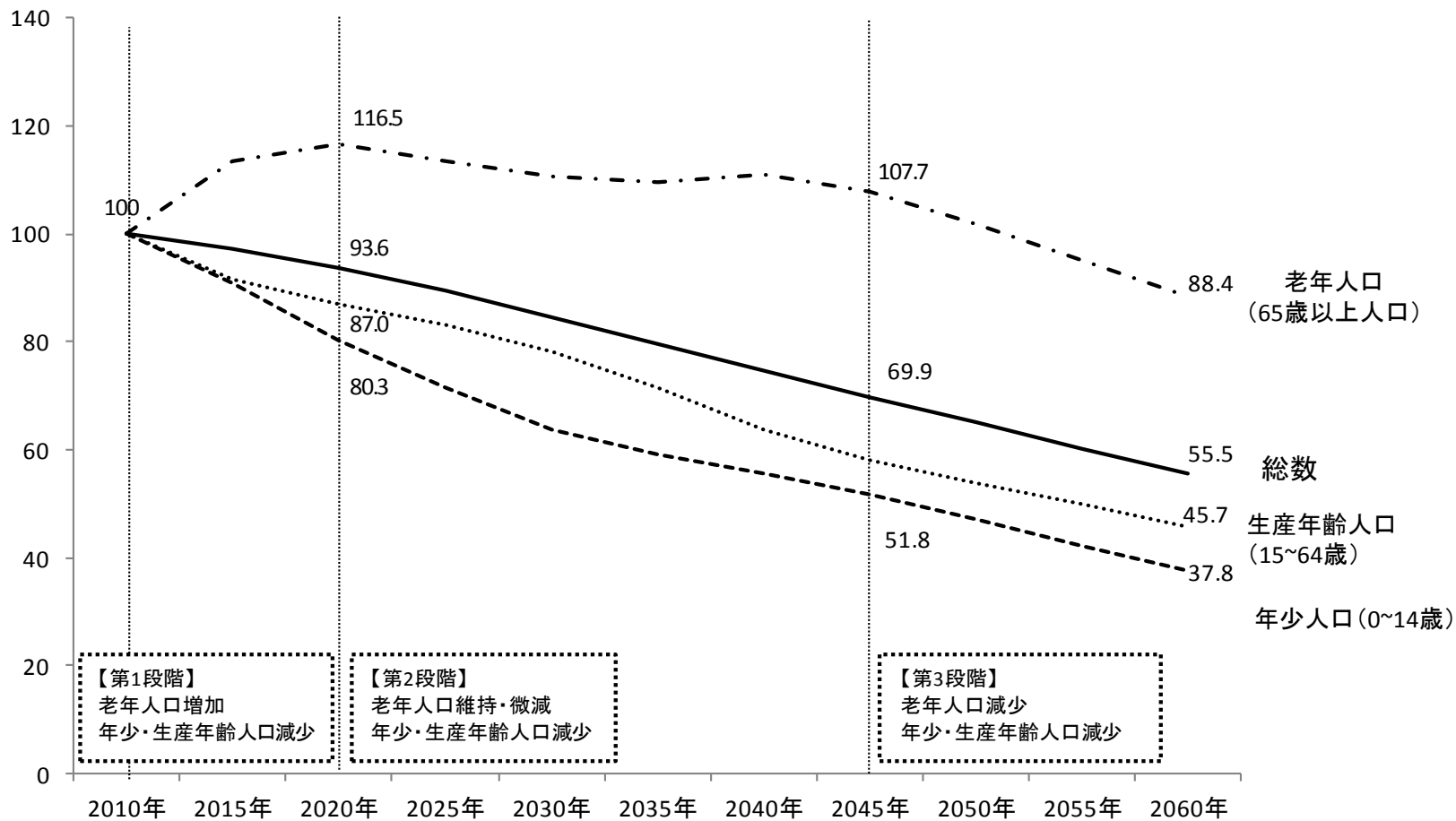
市係数設定 「合計特殊出生率1.28(2010年、11年、12年の平均値)」、「純移動率、年齢5歳階級別に2000年-2005年、2005年-2010年の2期間の移動率の平均値を算出」いずれも推計期間中一定

2 将来推計人口 年齢4区分別構成比の推移



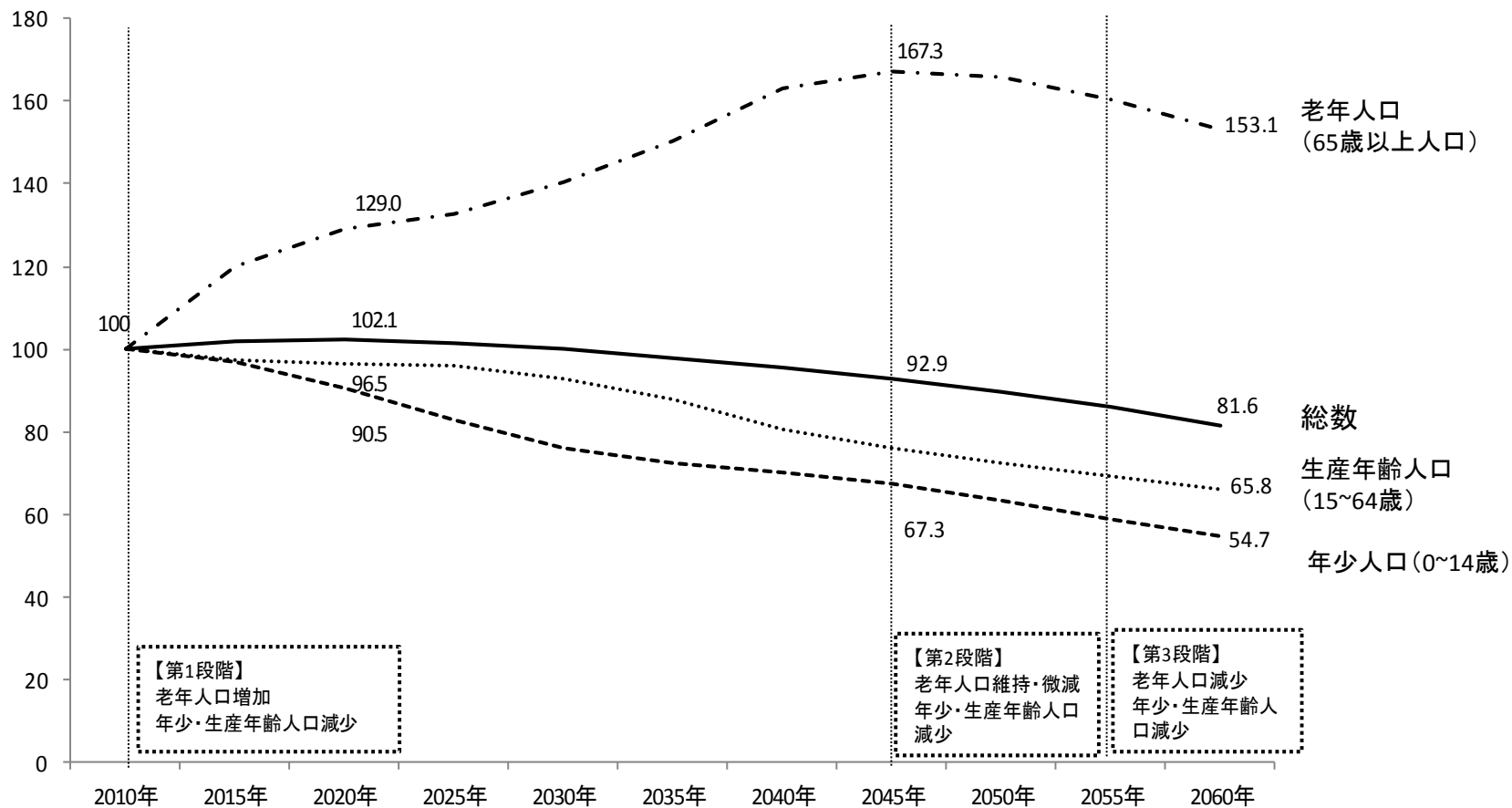
3 人口減少の段階分析

(2010年を100とした指数比較)



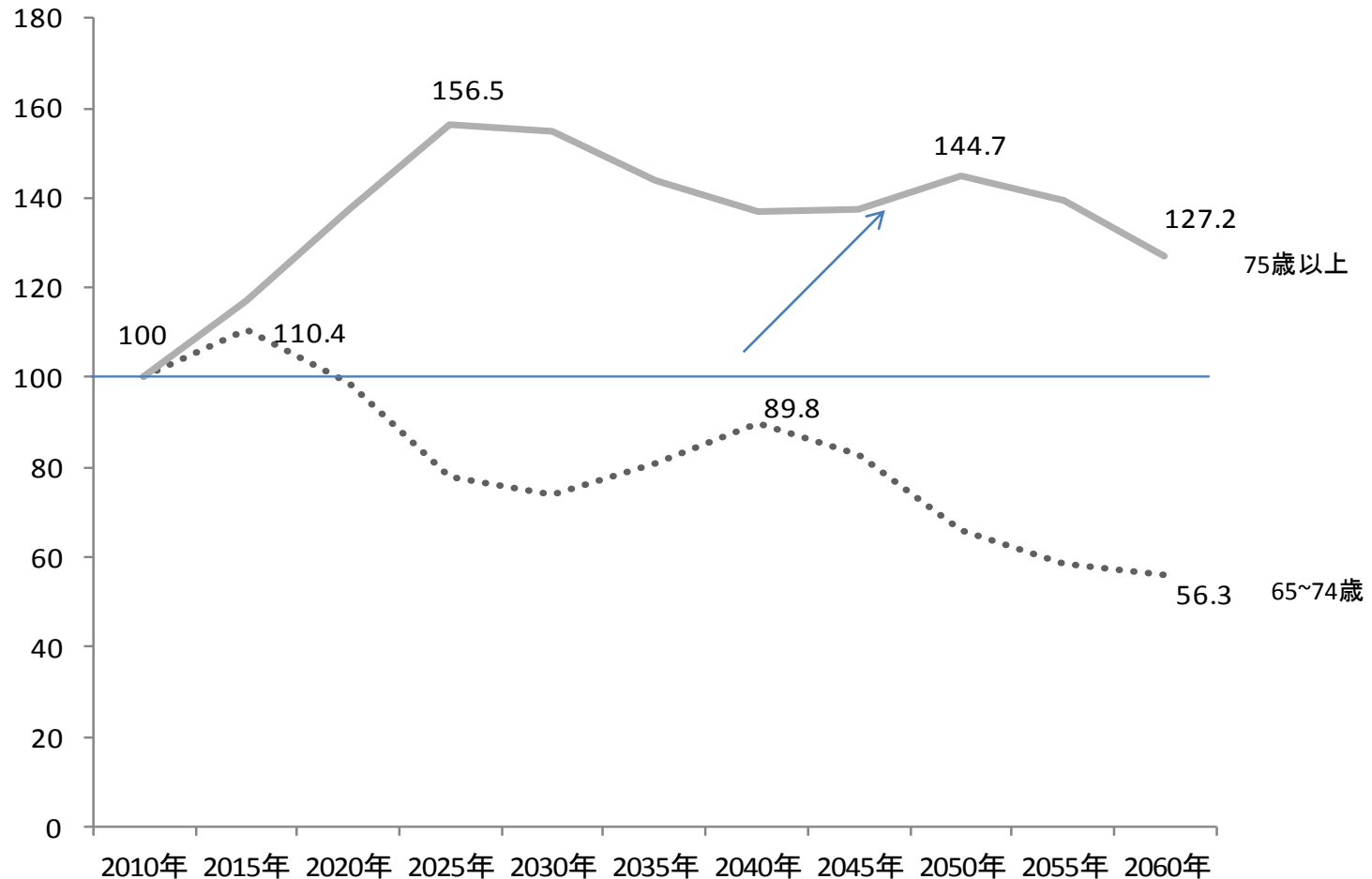
【参考】人口減少の段階分析(藤沢市)

(2010年を100とした指数比較)



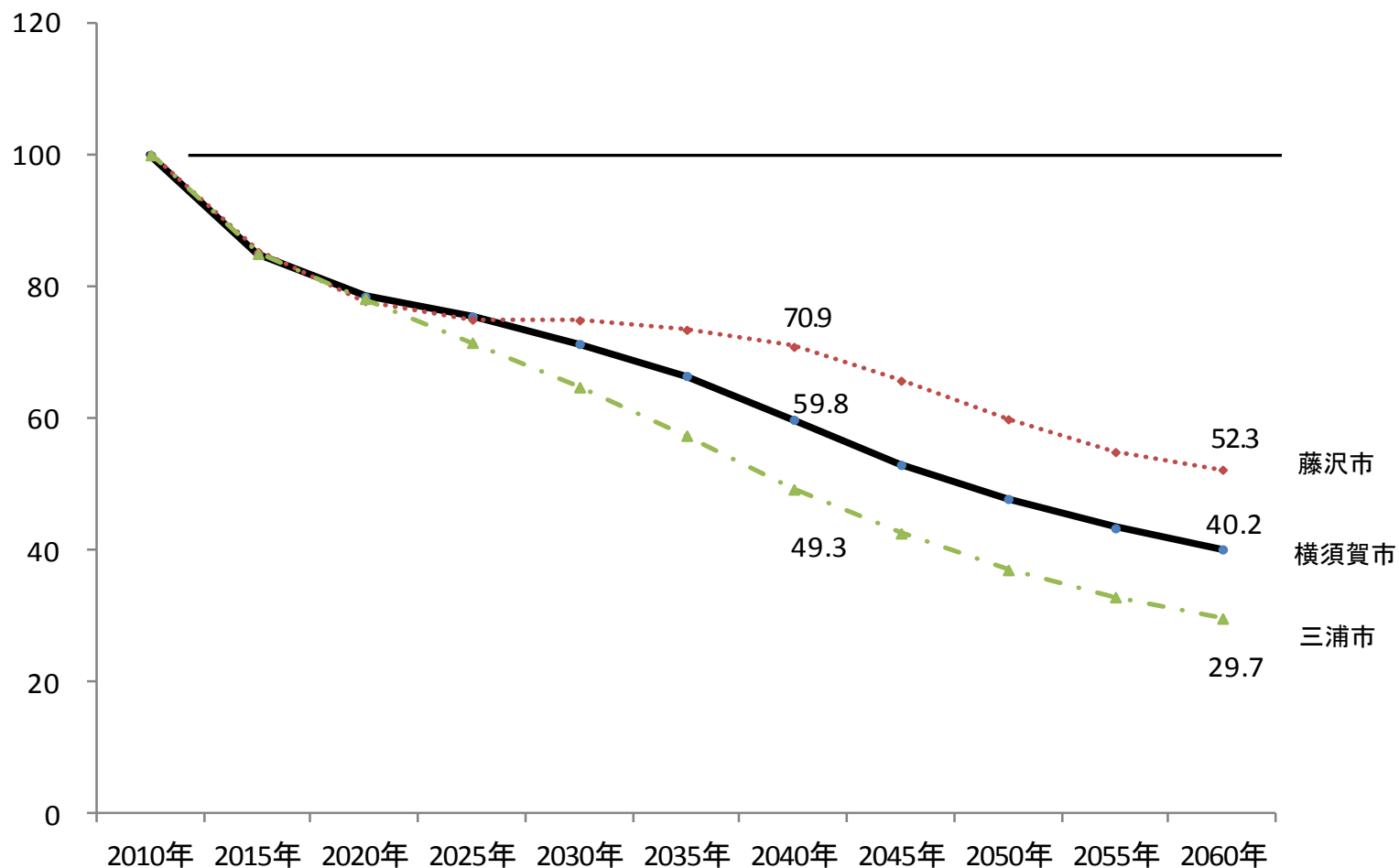
4 老年人口の推移分析 65-74歳と75歳以上

(2010年を100とした指数比較)



5 20 - 39 歳女性人口の将来分析

(2010年を100とした指数比較)



6 将来人口（シミュレーション）

将来人口（シミュレーション）の条件

<シミュレーション1>

- ・合計特殊出生率が平成42年（2030年）までに1.8に上昇し、以降1.8が続くと仮定（上昇過程における出生率の仮定 2020年1.50 2025年1.65）仮定

※合計特殊出生率：1.8の設定

国のまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」が目指す将来の方向における国民希望出生率（若い世代の希望が実現すると、出生率は1.8程度に向上する）

<シミュレーション2>

- ・合計特殊出生率が平成42年（2030年）までに人口置換水準（2.1）に上昇し、2030年以降2.1が続くと仮定（上昇過程における出生率の仮定 2020年1.50 2025年1.80）仮定

<シミュレーション3>

- ・合計特殊出生率が平成42年（2030年）までに人口置換水準（2.1）に上昇し、2030年以降2.1が続くと仮定（上昇過程における出生率の仮定 2020年1.50 2025年1.80）
- ・移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定

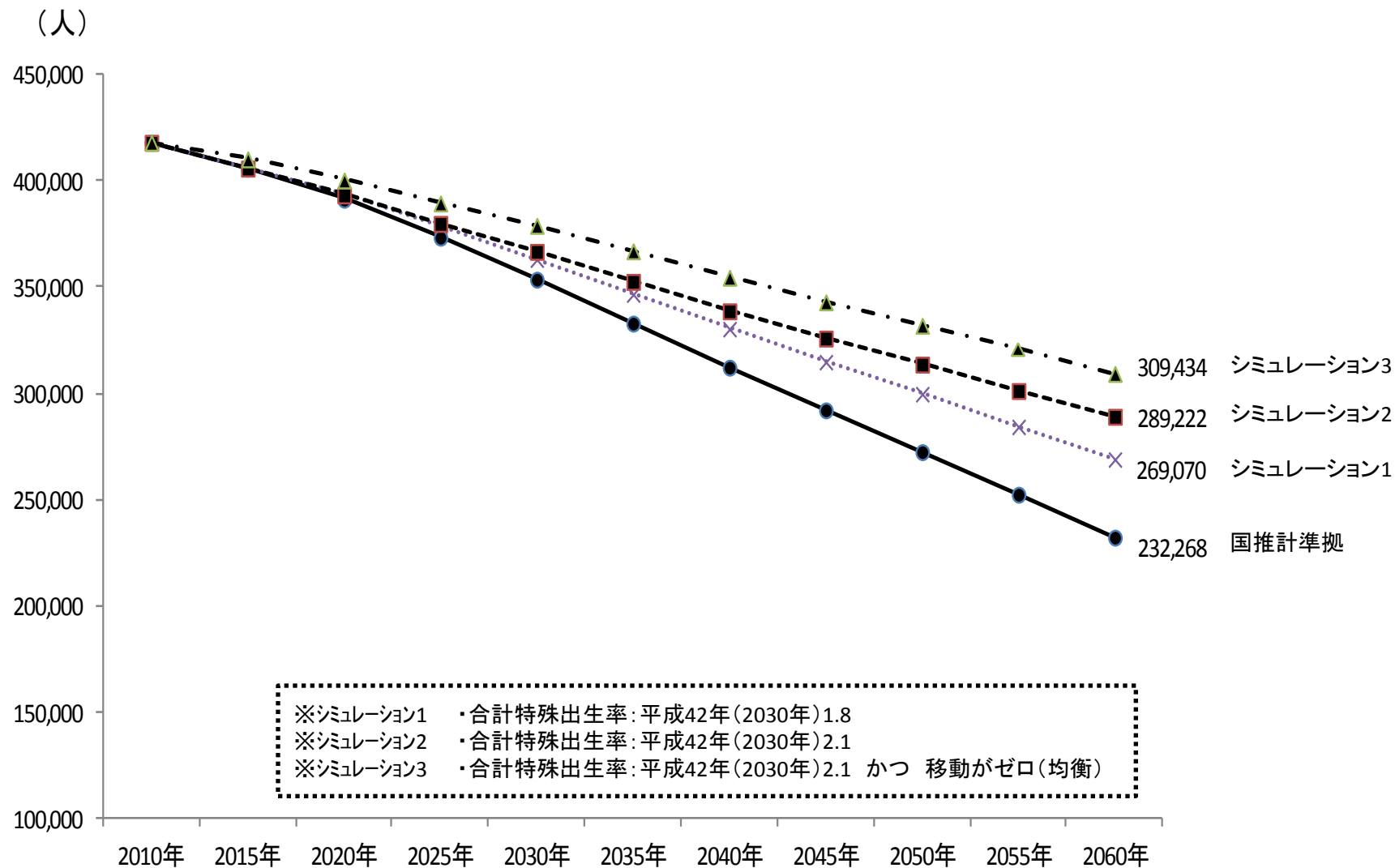
【人口置換水準】

- ・人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準

【合計特殊出生率（total fertility rate）】

- ・1人の女性とその年次の年齢別出生率で一生の間に産むと仮定したときの平均子ども数の合計

6 将来人口(シミュレーション) 総人口

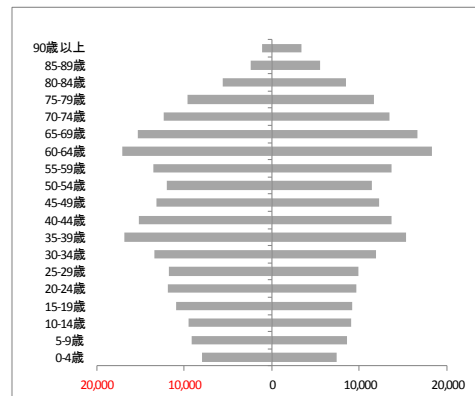
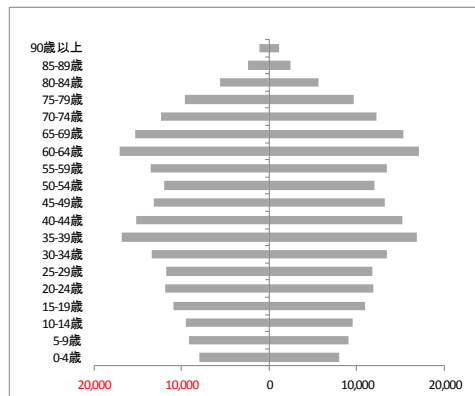
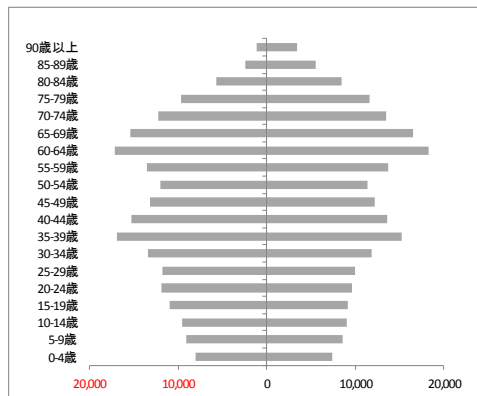


国推計準拠

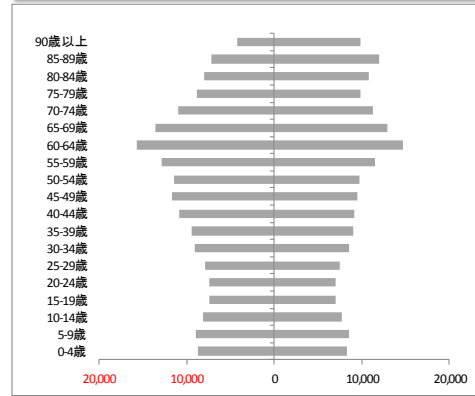
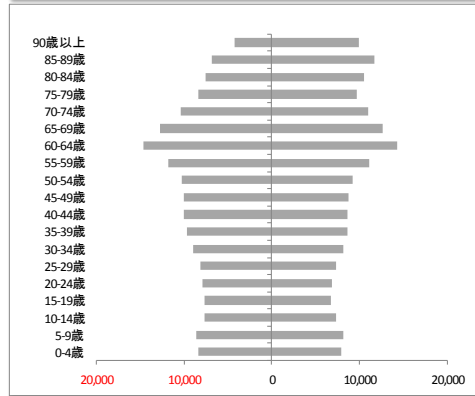
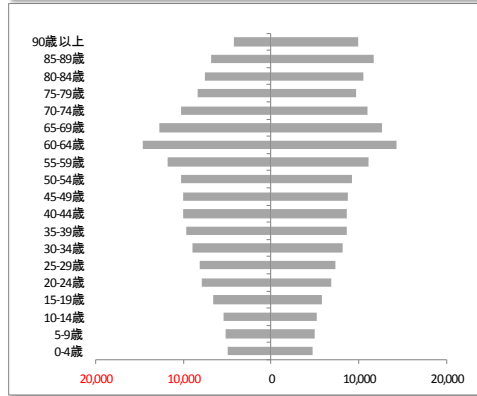
シミュレーション2

シミュレーション3

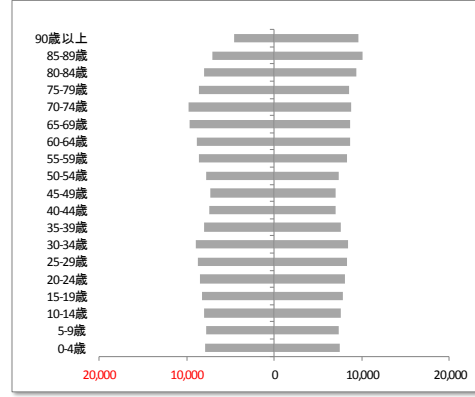
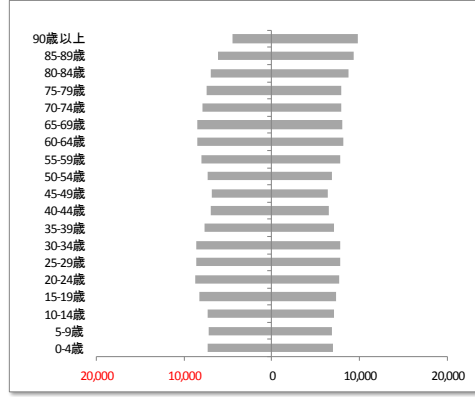
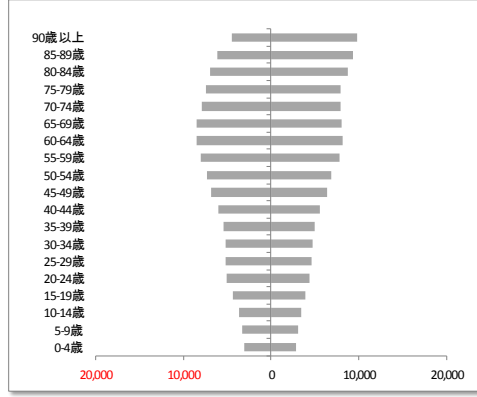
2010年



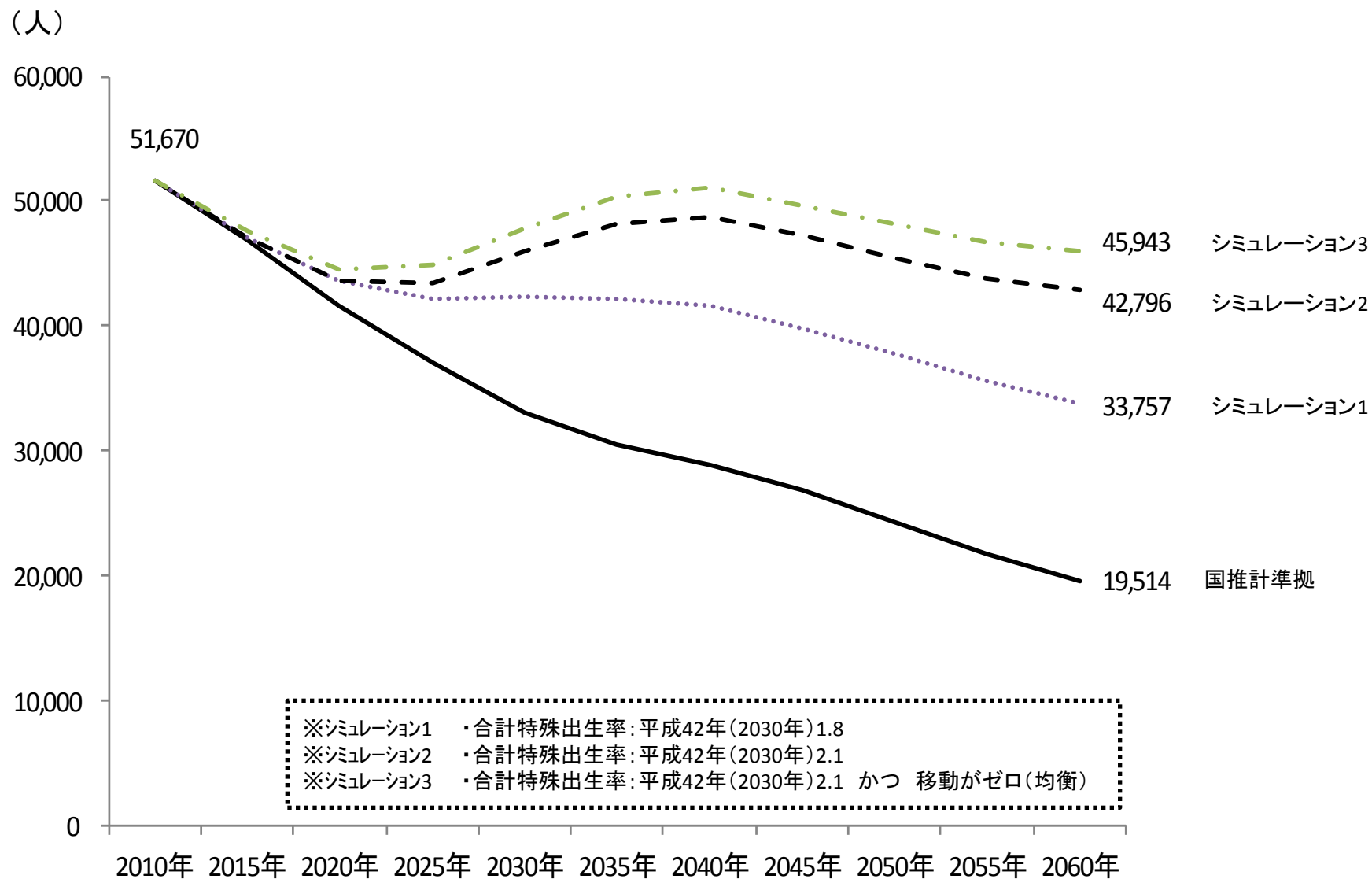
2035年



2060年



7 将来人口(シミュレーション) 年少人口(0-14歳)



8 将来人口(シミュレーション) 生産年齢人口(15-64歳)

